

第6 平成19～20年中に発生した 主な災害・事故について

1 平成19年(2007年)能登半島地震について

(1) 概要

平成19年3月25日9時42分頃、能登半島沖の北緯37度13分、東経136度41分、深さ約11km(輪島市門前町劔地沖合付近)を震源とするマグニチュード(以下Mと記述)6.9の地震が発生し、石川県能登地方を中心に七尾市、輪島市、穴水町で震度6強、志賀町、中能登町、能登町で震度6弱、珠洲市で震度5強、羽咋市、かほく市、宝達志水町で震度5弱を観測したほか、加賀地方でも震度4～3を観測した。

また、石川県以外でも、新潟県、富山県で震度5弱を観測したのをはじめ、北陸地方を中心に北海道から中国、四国地方にかけて震度5弱～1を観測した。

その後の余震活動は、この地震を本震とする本震－余震型で経過した。3月25日18時11分に本震後最大となるM5.3(最大震度5弱)の余震、更に26日7時16分にもM5.3(最大震度4)の余震が起こった。また、平成20年1月26日4時33分にもM4.8(最大震度5弱)の余震があった。

能登半島周辺では、過去に被害をもたらしたM6.0以上の地震が数回発生しているが、1600年以降、M7.0を超える地震は発生していないとみられ、今回の地震が最大規模のものと考えられる。

(2) 被害状況

人的被害：死者1名、負傷者338名

住家被害：全壊686棟、半壊1,740棟、一部損壊26,958棟

(3) 石川県内における被害状況

① 人的被害の状況

ア 死者 1名

・自宅内で灯籠の下敷きになる。(輪島市1名)

イ 重傷 88名

七尾市(24名)、輪島市(46名)、志賀町(10名)、中能登町(3名)、穴水町(3名)、能登町(2名)

ウ 軽傷 250名

七尾市(103名)、輪島市(69名)、珠洲市(3名)、羽咋市(1名)、津幡町(1名)、志賀町(27名)、穴水町(36名)、能登町(10名)

② 住家被害の状況

エ 全壊 686棟

七尾市(69棟)、輪島市(513棟)、羽咋市(3棟)、かほく市(3棟)、志賀町(15棟)、中能登町(3棟)、穴水町(79棟)、能登町(1棟)

オ 半壊 1,740棟

七尾市(304棟)、輪島市(1,086棟)、羽咋市(13棟)、かほく市(2棟)、志賀町(215棟)、

宝達志水町（3棟）、中能登町（7棟）、穴水町（100棟）能登町（10棟）
 カ 一部損壊 26,955棟
 七尾市（7,296棟）、輪島市（9,988棟）、珠洲市（685棟）、加賀市（6棟）、
 羽咋市（142棟）、かほく市（18棟）、白山市（1棟）、津幡町（2棟）、志賀町（3,384棟）、
 宝達志水町（26棟）、中能登町（1,959棟）、穴水町（2,318棟）能登町（1,130棟）

③ 非住家被害の状況 4,477棟
 金沢市（16棟）、七尾市（350棟）、小松市（2棟）、輪島市（2,899棟）、珠洲市（23棟）、
 加賀市（6棟）、羽咋市（29棟）、かほく市（11棟）、白山市（7棟）、能見市（1棟）、
 津幡町（1棟）、志賀町（850棟）、宝達志水町（1棟）、中能登町（15棟）、穴水町（248棟）、
 能登町（18棟）

（４）災害対策本部の設置状況

① 県災害対策本部

・ 石川県災害対策本部設置：平成19年 3月25日12：30
 （同時刻、奥能登総合事務所（輪島市内）に現地災害対策本部設

・ 会議の開催状況

25日10：45	災害対策本部員等連絡会議	開催
25日12：30	災害対策本部員会議（第1回）	開催
25日21：15	災害対策本部員会議（第2回）	開催
26日 9：00	災害対策本部員会議（第3回）	開催
26日18：00	災害対策本部員会議（第4回）	開催
27日 9：15	災害対策本部員会議（第5回）	開催
27日18：00	災害対策本部員会議（第6回）	開催
28日 9：15	災害対策本部員会議（第7回）	開催
28日18：15	災害対策本部員会議（第8回）	開催

同日、現地災害対策本部を輪島市役所に移設し、輪島市災害対策本部との合同会議を開催（4月24日までに19回開催）
 3月29日以降、4月16日まで災害対策本部員会議を毎日開催
 4月24日17：00 災害対策本部員会議（第28回）開催
 同日、現地災害対策本部を撤収（合同会議解散）

・ 石川県災害対策本部解散：平成20年 6月 6日14：30

② 市町災害対策本部（3市4町）

七尾市	平成19年3月25日10：00（平成20年6月6日解散）
輪島市	25日10：10（平成20年6月6日解散）
珠洲市	25日10：00（4月25日解散）
志賀町	25日10：40（5月21日解散）
中能登町	25日10：10（4月27日解散）
穴水町	25日10：20（平成20年6月6日解散）
能登町	25日10：15（4月25日解散）

2 平成19年(2007年)新潟県中越沖地震について

(1) 概要

平成19年7月16日10時13分、新潟県上中越沖の北緯37度33分、東経138度36分、深さ約17kmを震源とするマグニチュード(以下Mと記述)6.8の地震が発生し、新潟県長岡市、柏崎市、刈羽村と長野県飯綱町で震度6強、新潟県上越市、小千谷市、出雲崎町で震度6弱を観測したほか、北陸地方を中心に東北地方から近畿・中国地方にかけて震度5強～1を観測した。

地震活動は本震－余震型で推移し、余震活動は比較的低調で順調に減少した。本震の発震機構は、北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。最大余震は、16日15時37分に発生したM5.8(最大震度6弱)の地震であった。

(2) 被害状況

人的被害：死者15名、負傷者2,346名

住家被害：全壊1,331棟、半壊5,709棟、一部損壊37,301棟

(3) 石川県における対応状況

① 緊急消防援助隊の派遣について

新潟県知事から消防庁長官に緊急消防援助隊の応援要請があったため、消防庁長官から石川県知事に対し、消防組織法第24条の3第1項に基づき、平成19年7月16日、石川県の緊急消防援助隊に対し、新潟県への出動の求めがあった。

7月16日～7月17日

・航空部隊：1隊4名(石川県消防防災航空隊)後方支援隊として陸上での支援

② 人的及び物資の支援について

石川県及び県内市町から、人的支援及び物資の支援を実施した。

ア 人的な支援

石川県及び県内市町から、平成19年7月16日～7月25日にかけて、延べ121名(県職員51名、市町職員70名)が新潟県における応急対策及び災害復旧などのために派遣された。

イ 物資の支援

石川県及び県内市町から、平成19年7月16日～7月19日にかけて、アルファー米(2,000食)や乾パン(2,000食)などの食糧及び飲料水、毛布(840枚)などの日用品、ブルーシート(1,050枚)などを救援物資として提供した。

3 平成20年(2008年)岩手・宮城内陸地震について

(1) 概要

平成20年6月14日08時43分、岩手県内陸南部の深さ8kmでマグニチュード(以下、M)7.2の地震が発生し、岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度6強、宮城県大崎市で震度6弱を観測したほか、東北地方を中心に北海道から関東・中部地方にかけて震度5強～1を観測した。また、同日09時20分にM5.7の余震が宮城県北部で発生し、宮城県大崎市で震度5弱を観測したほか、宮城県を中心に東北地方から関東・甲信越地方にかけて震度4～1を観測した。

気象庁はこの地震に対して、最初の地震波の検知から4.5秒後に「岩手県内陸南部、岩手県内陸北部、岩手県沿岸南部、岩手県沿岸北部、宮城県北部、宮城県中部、山形県最上、秋田県沿岸南部、秋田県内陸南部で強い揺れに警戒が必要」の旨の緊急地震速報(警報)を発表した。

また、気象庁は地震発生後直ちに国土交通省緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE: Technical Emergency Control Force)として気象庁地震機動観測班(以下、機動班)を派遣した。機動班が震度6弱以上を観測した震度観測点周辺で行った聞き取り調査によると、震度観測点周辺では震度6弱から6強に相当する揺れを感じていたことがわかった。しかし、顕著な建物被害は見られなかった。

本震の発震機構は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。地震活動は本震-余震型で推移しており、余震は徐々に減ってきているが、「平成7年(1995年)兵庫県南部地震」(M7.3)に比べて余震活動は活発である。余震は北北東から南南西に延びる長さ約45km、幅約15kmの領域で発生している。7月31日までの最大余震は、6月14日09時20分に宮城県北部で発生したM5.7(最大震度5弱)の地震である。

(2) 被害状況

人的被害: 死者17名、行方不明者6名、負傷者426名

住家被害: 全壊30棟、半壊146棟、一部損壊2,521棟

(3) 石川県における対応状況

緊急消防援助隊の派遣について

宮城県知事及び岩手県知事から消防庁長官に緊急消防援助隊の応援要請があったため、消防庁長官から石川県知事に対し、消防組織法第44条第1項に基づき、平成20年6月14日、石川県の緊急消防援助隊に対し、宮城県への出動の求めがあった。

6月15日～6月17日

- ・航空部隊: 1隊5名(石川県消防防災航空隊)が宮城県栗原市において、延べ13回、人員搬送等の活動を行った。

4 浅野川流域の豪雨災害について

(1) 概要

北陸付近には停滞前線があつて石川県付近をゆっくり南下した。この前線に伴う雨雲は、28日未明から強まり県内では朝を中心に大雨となった。

降水量は、浅野川上流の芝原地内の60分間雨量は138mmを記録し、これは金沢地方気象台での観測史上最高の77mmを大幅に超える記録的な豪雨であつた。この大雨により、能登南部から加賀北部を中心に河川の溢水、床上・床下浸水及び土砂崩れ等の災害が発生した。また、金沢市の浅野川水系全域に避難指示、内灘町の大野川流域に避難勧告等が発令された。

(2) 石川県内における被害状況

人的被害の状況

なし

住家被害の状況

- ・ 全壊2棟 [金沢市 (2棟)]
- ・ 半壊9棟 [金沢市 (9棟)]
- ・ 一部損壊7棟 [金沢市 (7棟)]
- ・ 床上浸水507棟 [金沢市 (507棟)]
- ・ 床下浸水1,486棟 [金沢市 (1,476棟)、羽咋市 (3棟)、白山市 (1棟)、内灘町 (5棟)、中能登町 (1棟)]

(3) 災害対策本部の設置状況

① 県災害対策本部

- ・ 石川県災害対策本部設置：平成20年7月28日15：00
- ・ 会議の開催状況
28日 10：30 平成20年7月大雨災害対策本部員等会議
28日 17：30 平成20年7月大雨災害対策本部員会議 (第1回)
29日 11：00 平成20年7月大雨災害対策本部員会議 (第2回)
8月1日 15：00 平成20年7月大雨災害対策本部員会議 (第3回)
8月3日 14：00 平成20年7月大雨災害対策本部農林・土木関係者会議
- ・ 災害対策本部体制から、危機管理監室を窓口とする、土木部、農林水産部等と連携した体制に移行：平成20年8月8日17：00

② 市町災害対策本部

- ・ 金沢市 平成20年7月28日 8：45 (8月18日17：00 解散)
- ・ 内灘町 28日 9：45 (7月28日20：35 解散)

(4) 避難勧告等の状況

① 避難指示

7月28日 8:50発表 金沢市 浅野川流域全域 (28日 11:45 解除)

② 避難勧告

7月28日 8:45発表 金沢市 浅野川流域全域 (8:50避難指示に切替)
28日 9:50発表 金沢市 大野川流域 (28日 12:55 解除)
28日 9:50発表 内灘町 大野川流域 (28日 12:47 解除)
28日 16:15発表 金沢市 芝原町 (H21.6.30~H21.7.24解除)
29日 19:30発表 金沢市 折谷町 (H21.6.14~H21.7.24解除)
30日 11:45発表 金沢市 辰巳町 (H21.7.24解除)
30日 18:00発表 金沢市 板ヶ谷町 (H21.9.11~H21.10.30解除)

③ 避難準備情報

7月28日 7:40発表 金沢市 額校下、四十万校下、扇台校下
(28日 10:50解除)
28日 8:00発表 金沢市 湯涌校下 (8月8日 12:00 解除)

(5) 県の対応について

① 災害救助法適用

7月28日 災害救助法を適用 (適用市町：金沢市)

② 被災者生活再建支援法適用

7月28日 災害救助法第1条第1項第1号に該当する被害が発生したことから、被災者生活再建支援法を適用 (適用市町：金沢市)

③ 災害ボランティアの活動

7月28日 石川県災害対策ボランティア本部設置 (8月8日 17:00 解散)
30日 災害ボランティア活動開始

④ 応急仮設住宅の状況

湯涌地区に8戸建設 (8月20日着工 9月20日完成)
入居者：8戸8世帯24人 (平成21年10月12日 全世帯退去)